



ぬくもり




有田孝子様の紹介

有田 順一様 お兄様

知的障害をもつて生まれた妹も今年9月で七十二歳になります。小中学校を卒業後は母が常に手元におき、農作業の手伝い（草取り等）を教えていました。自転車も教えた乗れるようになると近くの畑まで自転車で行くようになり、平成二年五月から市障害福祉センターが開所され職員の方から勧めを頂き通う事になりました。センターでは、障害者に出来る簡単な仕事をやらせて頂きましたので、飽きずに毎日通う事が出来ました。一年に一度の旅行があり親子共々楽しみにしていたように、平成二十六年頃から、おれおれの杜さんにお世話になりました。その中で福祉センターからのお友達が数人いましたので喜んで通いました。その後介護保険が適用され平成二十八年十一月からキングスガーデンのデイサービスにお世話になりました。平成一一年一月から特養に完全入所になりました。馴れるまで心配していましたが、職員の皆様にご心温まる介護を頂きまして有難うございます。今後共宜しくお願ひ致します。



手をとりあて



岩の上の修道院

据えられた土台

施設長 小川内秀樹

チャペルでの礼拝で安藤牧師がお話された聖書の中に、岩の上に土台を据えて家を建てた人の話がありました。神様の話を聞き、それを行う人の例え話です。言うまでもなく、土台は大切ですが、シンプルなものですが、何事にも礎になる存在です。傾きがあると、その上に座する物は、成長すればする程、影響が大きくなっていきます。デイヘルパーをしていた時代に、ご利用者から、建物の土台を作る大工が一番腕があるんだと何度も教えてくれた事を思い出します。しっかりとした台でありながら、水平を保つ事は、ゆるがな基本を持つことを思わせ、人生そのものに感じ入ります。朝日の上がる広大な海の水平線は、霞がかって見えなくとも、在る事は経験で見えており、どこか心の落ち着きを感じるのは、そんな繋がりからかもしれません。その人の持つ土台は目には見えませんが、体現されているとすれば、生き様と呼ぶものでしょう。自然の豊かさの中に、土台を感じさせるものは、気づけば沢山あるようです。土台である神様に委ねて、一歩ずつ歩んでいきたいと思ひます。

七月三日に花火の集いを開催しました。心配した天気も何とか持ちこたえました。手持ち 噴き上げ 打ち上げの三種類の花火を順番に行いました。ご利用者様に手持ち花火を持って頂くと、綺麗だね。昔を思い出すな」と笑顔で仰っていました。女性利用者のM様は、子供達は夏の間に何度か花火をやったよ」と懐かしそうに教えて下さいました。手持ち花火を楽しんだ後に吹き上げ花火、打ち上げ花火を行い、大きな音でご利用者が驚き歓声が上がりました。たくさん笑顔が見られ楽しんで頂けたように思います。来年も出来る事を楽しみにしています。

花火の集い

ヘルパー 栗崎あゆみ

私は生きているかぎり、主に歌い、いのちのあるかぎり、私の神にほめ歌を歌いましょう。
詩編104編33節



機かしいな～




綺麗だね～

すいか割り


ヘルパー 木村美香

大きなすいかを目の前にし、ご利用者が力を込めて割ったすいか。私もやってみよう！と皆さんで交換しながら割ったすいか。真つ赤で綺麗な色をしたすいかを、美味しそうに頬張っておられるご利用者。食べるまでに苦労した分、美味しさも一際です！

すいかの季節。暑い夏がこれからやってきますね。来年のすいか割も皆さんと一緒に開催したいと思ひます。



大きなすいか！



あきーい！！

家族と共に

日時 九月十六日(月)


十時～十五時三十分

場所 食堂ホールにて

当日の予定

- ☆家族懇談会
- ☆食事会
- ☆アトラクシヨン

皆様ののびのびを心よりお待ちしております



昨年の食事会の様子

編集後記

まだまだ暑い日が続きますが、こまめに水分摂取して体調を崩さないように気をつけましょう。

ほへみ担当 神山 木村

相談員日誌

折り

野田望

夏になると幼少期に喘息で寝込んだ記憶が蘇る。夏休みなどは千葉の従兄弟が栃木の家で遊びに来た時でさえ、一人布団の中で苦しんでいた。私以外の子供達の嬉々とした声が外から聞こえてくると、自分の体の弱さが恨めしかった。そんな時にはいつも父がさりげなく寝室に来て折ってくれた。折りを通し私の心は決まって穏やかになった。時は経ち、キングスガーデンの朝の礼拝では私も利用者に折ることがある。利用者の肩に手を置き、その方の一日の健康が守られ、楽しい一日になるように折ると、クリスチャンではない方でも、穏やかな表情で手を合わせありがとうございます。と口にする。私に折ってくれた父の気持ちに少しだけ分かった夏の朝だった。

八月の誕生者

氏名	生年	年齢
飯塚操様	昭和八年	八十六歳
西山富夫様	昭和二十六年	六十八歳
廣瀬昇様	昭和五年	八十九歳

お誕生日おめでとうございます。

スプーン一杯の喜び

理事長兼施設長 宇都宮和子

特養のご利用者も全介助者が多く、食事、入浴、排泄など多くのスタッフの手を必要としております。先日、ヘルパーさんが体調を崩し、介護の手が薄くなり、久しぶりにMさんの食事介助させて頂きました。入所されてもう十五年過ぎたでしょうが、会話も思うように出来ないが、アイコンタクトで挨拶をし、スプーンを口にくくり運ぶと美味しそうに食べてくれています。前で見ていたご利用者が、良かったね！来てくれて、喜んでくれるよ、と自分の事のように話して下さる。Mさんは会話が思うように出来ないが、しっかりと耳で聞き、心の豊かな方です。最後まで「一緒に」と話すと笑顔から涙が溢れ、ご利用者の優しさが伝わって来ます。

スプーン一杯の食事を、匙、匙運ぶスタッフに本当に感謝です。時にはフニングもあり、突然、食膳をひっくり返す元気なご利用者さん、それをさげなく後始末をするヘルパーさん、その対応には感心します。時にはヘルパーさんが傷ついたりすることもあるが、ご利用者さんへの危険防止は最優先です。水分をしっかりと取り、スプーンで「匙」匙最後まで食事食べて下さったMさんの介助をしながらご利用者の優しさ、ヘルパーさんの大変さも垣間見たひと時でした。